

2023/03/25 8:45～9:15

JSET 2023春季大会 チュートリアルセッション

JSETへようこそ！

～有意義な大会・研究会にするための
質問・発表の心得とは？～

登壇者

村上 正行（日本教育工学会副会長（会員サービス担当）／大阪大学）

江木 啓訓（電気通信大学）

居原田 梨佐（電気通信大学大学院）

鍋谷 航平（電気通信大学大学院）

コーディネーター

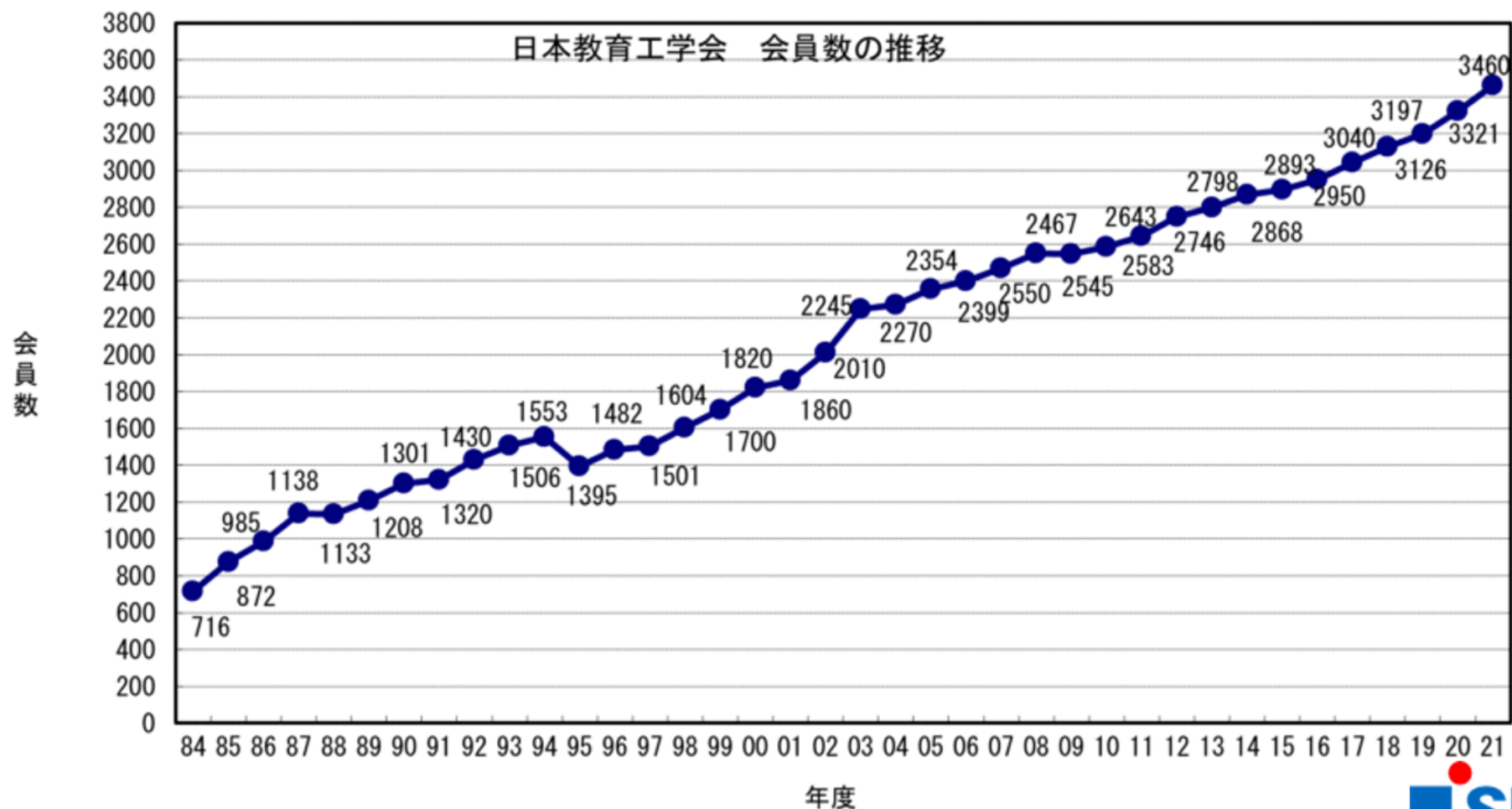
石川 奈保子（北海道大学）

本TSの趣旨

- ・ 主に学生、学会での発表に不慣れな参加者のみなさんへ
- ・ 学生会員の疑問に、学会副会長、指導学生をもつ教員が答えます
- ・ 大会・研究会参加にあたっての心得として、質問をもらえる発表の仕方、質問の仕方についてのヒントを提供します

日本教育工学会 (JSET)

- 1984年設立、2021年3月に一般社団法人化
- 年2回（2日間）の全国大会、年4回の研究会、年4回の論文誌発行
- 教育システム情報学会（JSiSE）と合同で国際ジャーナルITEL発行



JSET(日本教育工学会)とは？

以下の3つを行うコミュニティ

1. 研究開発

- 教育工学研究(理論と応用)を推進するコミュニティ
 - 教育における問題を解決するための知見の集約・理論の構築

2. 人材育成

- 教育工学研究マインド&スキルを持つ人を育成するコミュニティ
 - カリキュラム、学習システム・ツール、教材の開発
 - 教育工学者が学び続けられる

3. 社会貢献

- 研究成果を広く社会に提供するコミュニティ
 - 教育実践の現場へ(学校、教育産業、大学、生涯学習、企業内)
 - 国や組織へ (国(政策)、自治体、企業)

JSETの主な活動

- **全国大会：ハイブリッド挑戦中**
 - 春季大会：「ゆったり発表」 口頭発表＋SIGセッション etc.
 - 秋季大会：「じっくり議論」 ポスター発表＋シンポジウム etc.
- **研究会**
 - 年4回：全国での開催
 - 2022年度：発表は会場、聴講はハイブリッド
- **重点活動領域／SIG活動**
 - 重点活動領域：2021年スタート
 - 情報教育・学習環境・学習評価
 - SIG (Special Interest Group)：2022年リスタート
 - 5つのSIGが活動中

JSET春季全国大会「ゆったり発表」

- 一般研究発表：口頭発表 14分、質疑5分
- 学生セッション
 - セッション内でディスカッションの時間(20分間)
 - 学生セッション優秀発表賞
- SIGセッション 3/26(日) 14:10～14:30
 - SIG-AI 人工知能の教育利用
 - SIG-CL 協調学習・学習科学
 - SIG-ID インストラクショナルデザイン
 - SIG-ML メディア・リテラシー, メディア教育
 - SIG-TL 教師教育・実践研究
- シンポジウム 3/26(日) 14:40～16:40
 - 「1人1台端末時代における教育工学研究の役割」
- 重点活動領域セッション 3/25(土)
 - 情報教育部会 11:00-12:30
 - 学習環境部会 13:30-15:00
 - 学習評価部会 15:30-17:00

学会での発表の理想形：質疑応答のときに いろんな人から質問・コメントがもらえる



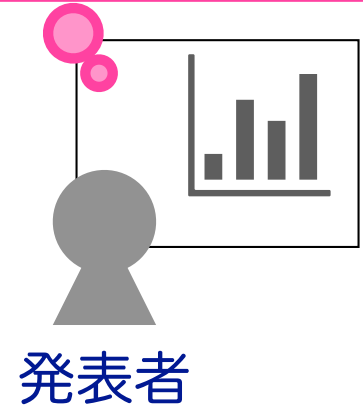
質問やコメントはございませんか？

たくさん質問とコメント
がもらえて嬉しいな



△△は◇◇ですか？

△△については～～



□□については～～
今後検討します

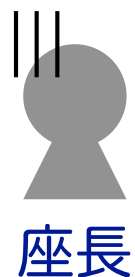
□□については○○では
ないでしょうか？

はい
××は◎◎で～～



××は◎◎でしょうか？

質疑応答あるある(1)：質問が出ない



質疑応答はございませんか？

あれ？ 質問する人がいない？

で、では…座長の私から…

せっかく発表したのに質問もコメントもないのは悲しいな…



発表者

よくわからなかったな

…

…

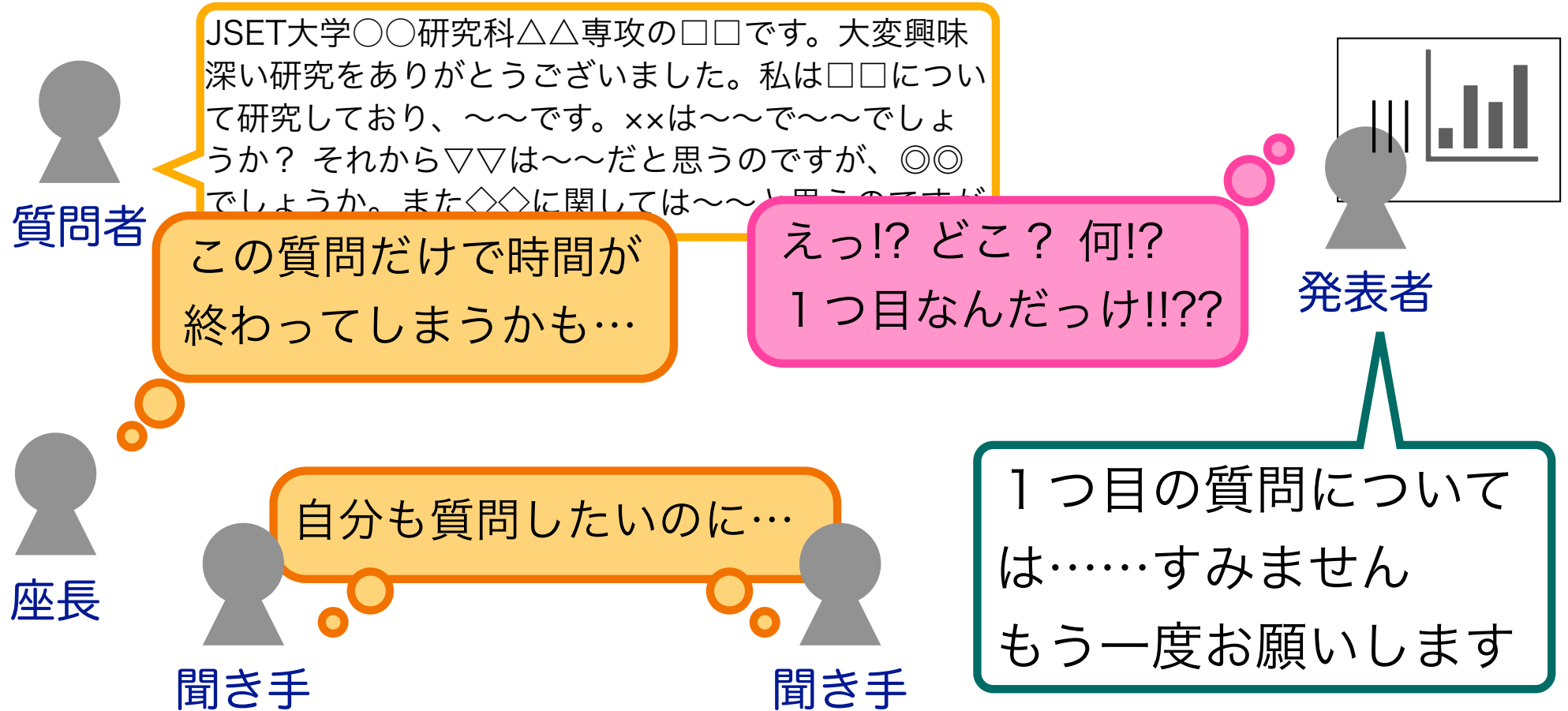
自分なんかが質問していいのかな？

聞き手

聞き手

質疑応答あるある(2) :

1人の質問者が一度にたくさんの質問をする



質疑応答あるある(3) :

パニックになってうまく答えられない

登壇者のご紹介

学生会員：

いはらだ りさ
居原田 梨佐さん

なべたに こうへい
鍋谷 航平さん

(電気通信大学大学院 江木研究室 修士課程2年)

指導教員：

え ぎ ひろのり
江木 啓訓先生 (電気通信大学)

日本教育工学会副会長：

むらかみ まさゆき
村上 正行先生 (大阪大学)

学生会員からの疑問

発表・質疑応答での伝え方について

- ・全部話した方がよいのか、どこに力点を置いたらいいのか
- ・質問に回答するとき、どの程度までかみ砕いて話せばいいのかどう見極めるか

質疑応答での受け答えについて

- ・何と答えればよいかわからない質問がきたらどうするか
- ・話の前提が違う人から質問が来たらどうすればいいのか

発表の心構えについて

- ・聞いてくれる人はどのように見ているか、自分の浅い経験や内容で不安がある
- ・最初のときは緊張したがどうすればいいか

疑問(1) 発表・質疑応答での伝え方について

- ・ 全部話した方がよいのか、どこに力点を置いたらいいのか
発表時間が決まっている口頭発表
持ち時間中に何周かするポスター発表
- ・ 質問に回答するとき、どの程度までかみ砕いて話せばいい
のかどう見極めるか

- ・ 口頭発表：力点を置くところは研究の段階による
(構想段階、データ分析したあとなど)
- ・ ポスター：簡単に説明したあと、質問を受けながら説明する
- ・ 背景、前提条件がわからないと研究全体が伝わらない
→ 「ほかの分野のかたにもわかりやすく」を意識する
- ・ うまく説明できなくても、対面なら発表のあとに話せる

疑問(2) 質疑応答での受け答えについて

- ・ 何と答えればよいかわからない質問がきたらどうするか
- ・ 話の前提が違う人から質問が来たらどうすればいいのか

- ・ 研究の前提としていることを聞き手に理解してもらえるようにする（発表でも、質疑応答でも）
- ・ いったん受け取るけど、引きずらない！
- ・ 質問のやり取りをすることで、発表者の研究が進んでいく
- ・ 質問者も「前提が違うことがあること」は意識しておく

疑問(3) 発表の心構えについて

- ・ 聞いてくれる人はどのように見ているか、自分の浅い経験や内容で不安がある
 - ・ 最初的时候は緊張したがどうすればいいか
-
- ・ 学会は、学内での「審査会」とは違う
あなたの研究に興味があって聴きにきてくれている
→自信を持って発表してほしい
 - ・ どういう研究をして、どんな結果を得られたのかを伝えられれば十分
 - ・ 多少失敗しても何か起こるわけではない！
 - ・ 研究者としてはみんなフラット
→その研究に関してはあなたがNo.1なので、自信を持って！

疑問(4) 質問の考え方

- どんな質問が発表者にとって有意義なのか、どういうふうに質問を考えるといいのか
 - 質問してみたいけど、ためらってしまう
-
- この研究をどう考えて着手したか、どこが難しかったか、どんな可能性があるのか、などを聞いてみるという
 - 関心を持ってもらっていることに感謝を
 - 学会は仲間！
その研究をよりよくするためにはどうしたらいいかという観点で質問する
 - 質問も練習が要る→うまく聞けなかったら、発表のあとにもう一度聞けばいい

有意義な大会・研究会にするための質問・発表の心得とは

発表の仕方：自分の問題意識を聞き手と共有できれば
いい質問やコメントがもらえる！

- ・ リサーチクエスチョンとその成果を明確に示そう
- ・ 自分が伝えたいこと、聞き手と議論したいことを中心にプレゼンテーションを組み立てよう

質問の仕方：予稿集には書かれていなことを質問をしよう

- ・ なぜこの研究に取り組んでいるのか：問題意識、必要性
- ・ この研究を進める上で一番難しい点は何か：課題、障壁
- ・ この研究がどのように発展できそうか：今後の課題、応用

学会は自由闊達に議論をするための場なので、遠慮は不要